

国際教育カリキュラムの構築をめざして

Towards Construction of an International Education Curriculum

服 部 勝 憲

HATTORI Katsunori

前：鳴門教育大学教員教育国際協力センター

Former: International Cooperation Center for the Teacher Education and Training
Naruto University of Education

Abstract : In order to raise an attitude of knowledge and technology that can respond to internationalization actively. The opportunity of a curriculum which specified the process of a plan, contents, method, practice, and evaluation is important. Here, it stands on the viewpoint of “the international educational cooperation conference report 2006”. It shows the direction of the university role about the view and international cooperation of “human security” and “sustainable development” to which importance is attached in every direction now. Construction of an international education curriculum which tends to the international education direction in this future study is considered.

キーワード：人間の安全保障，持続可能な開発，国際教育協力懇談会報告 2006，
国際教育カリキュラム

1. はじめに

『大学発知のODA～知的国際貢献に向けて～国際社会における責務を果たし，開発途上国の様々な課題をより効果的に解決するために大学をはじめ我が国が有する「知」を活かした国際協力を推進する』

このように国際教育協力懇談会報告 2006（以下「報告 2006」と記す）に示されており，国際協力における大学が有する「知」の活用の方角・大学が担う役割について示唆されている。

この「国際教育協力懇談会」は，文部科学大臣の私的懇談会として，国際協力において教育関係者が果たす役割や活動のあり方等について議論を進め，今日までに平成 12 年・14 年に報告を行っている。それらの報告・提案をもとに，学校教員の参画の幅を広げる青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」の創設，大学の国際教育協力研究センターの設置促進，国際教育協力「拠点システム」の構築，大学の国際協力促進のための「国際開発協力サポート・センター」プロジェクトの実施等々が推進されてきたのはその大きな成果といえる。

「報告 2006」の中で，「国際開発協力を取り巻く国際的な潮流」について記述されている。「国連ミレニアム宣言」はじめ，地震，災害，地域紛争，HIV/AIDS，感染症，環境問題，エネルギー問題等々にも触れられている。

国際教育協力懇談会報告 2006 の詳細については，下記文部科学省ホームページを参照されたい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/003/boshu/06071904/001.htm

また教育開発の観点からは「万人のための教育（EFA：Education for All）」の重要性が明確にされ，2015 年までに初等教育の完全普及を目指す目標達成に向けた取組が進んでいる一方で大きい地域格差があることはもとより，初等教育就学率の数的な向上が認められる諸国での質的な向上や中等・高等教育，職業教育開発の充実への期待等々，課題が山積している現状について明らかにされた。

今，国際協力について考え，活動する指針として，「人間の安全保障」，「持続可能な開発」という視野が重視されている。これらの用語はどのような考え方，背景

があって使われ始めたのか、現在共有されている概念はどういうことなのか等々検討することが重要である。

国連人間の安全保障委員会事務局による最終報告書要旨（2003年5月）によると、『「人間の安全保障」とは人間の中核にある自由を守ることである。人間自身に内在する強さと希望に拠って立ち、死活的かつ広範な脅威から人々を守ることを意味する。また、生存、生活及び尊厳を確保するための基本的な条件を人々が得られるようなシステムを構築することでもある。さらに、「欠乏からの自由」、「恐怖からの自由」、あるいは自身のために行動する自由といった様々な自由を結びつける。「保護」と「能力強化」はこうした目的を達するための総合戦略である。人々を危険から保護するためには、一貫した規範・プロセス・制度を国際社会が協調して構築する必要がある。また、能力を強化することにより、人々は自らの可能性を開花させ意思決定に参画できるようになる。保護と能力強化は相互補完関係にあり、多くの状況で双方ともが必要となる。

「人間の安全保障」は「国家の安全保障」を補完し、人間開発を伸長させるとともに人権を推進する。」と述べられている。

また外務省の「人間の安全保障イメージ図」（2004）では、「人間の安全保障とは、人間の生存、生活、尊厳に対する脅威から各個人を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、一人ひとりの視点を重視する取り組みを強化しようという考え方」と明確に示されている。このことから前述人間の安全保障委員会によって示された10の政策的結論の1つである「基礎教育の完全普及によりすべての人々の能力を強化すること」の位置づけが明らかになる。

また「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議が、わが国における実施計画を提出した（2006年3月）。その中で、2005年から2014年までの10年間に「国連持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決議されたことが示されている。注目すべきは、「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development 以下「ESD」）について、この実施計画の中でかなり具体的に提案されていることである。ここでは、まず「持続可能な開発とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりのことを意味しています。このため、すべての人が健康で文化的な生活を営むための取組が必要であり、貧困を克服し、保健衛生を確保し、質の高い教育を確保することなどが必須です。これらの取組は、性別、人種等により差別されず、公平に向上するよう取り組まなければなりません。また、これらの取組を資源の有限性、環境容量の制約、自然の回復力などを意識した節度ある

ものとし、将来世代へと持続する社会づくりとしなければなりません。さらに、戦争や紛争は、難民を生み、環境を破壊するため、平和への取組が必要です。以上を踏まえると、世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会などが持続可能性の基礎となっており、環境の保全、経済の開発、社会の発展（以下を含め、「社会」を文化の面も含めた広い意味で使います。）を調和の下に進めていくことが持続可能な開発です。」と総括的にとらえたうえで、その実現のためには、教育（ESD）が重要であり、その目標は「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと」とまとめられている。そのうえで、我が国におけるESDとして、「地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み（think globally, act locally）、持続可能な社会づくりの担い手となる」よう個々人を育成し、意識と行動を変革することです。そのためには、人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むという観点、個々人が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むという観点の2つの観点が必要です。このような視点を踏まえた上で、公共に主体的に関わり、持続可能な社会づくりに参画する個人を育むことを目指します。それは、未来の社会を描き、その実現に向けた取組を実行できる人づくりということも言えます。」と述べられている。これに続いて、ESD実施の指針として、「地域づくりへと発展する取組」、「教育の場、実施主体」、「教育の内容」、「学び方・教え方」、「育みたい力」、「多様な主体の連携、協働」、「評価」の視点から検討されている。また国内における具体的な推進方策として、「ビジョン構築、意見交換」、「協議による政策決定、関係性・主体性の促進」、「パートナーシップとネットワークの構築・運営」、「能力開発、人材育成」、「調査研究、プログラム開発」、「情報通信技術の活用」が示されている。さらに各主体に期待される取組として検討するなかで、特筆すべきは「教員養成・研修機関」について、「教員がESDに関する知識や技能を有していることにより、児童生徒への効果的なESDが可能となるため、教員養成・研修機関には以下のような取組や役割が期待されます。・ESDに係る教員の指導力の向上、授業の改善や充実のための研修を行うこと。この際、指導計画の作成、外部との連携手法、探求性や実践性を重視した教授法等についても取り上げること。・大学の教育学部

等の教職課程において、ESD について積極的に取り上げるとともに、実践的な指導方法を教授すること。」と示されている。

こうした実施計画の中で、関係各省庁が重点的に取り組む施策内容が具体的に明確に示されている。

近年の様々な問題、課題に接するときに、従来の国単独、または複数の国の連合体による安全保障で対応しきれものではないことは明瞭になってきていると考えられる。また進む市場経済・企業の論理の中で、貧富の差や食糧危機の拡大等々、…の現実をみると、我々の世界はこれからも持続可能なかどうか。このような観点から、人間、世界をみる視点は、現在の、そしてこれからの世界をつくる人間の教育に関わる教員養成の段階で、そして教員の力量向上の段階に関わる本学の目的からしても必須のものと考えられる。またこれらの視点は国際化について考え、経験する中で共有を図り、個々の、また集団の具体的な対応・活動として接近・実現していくことが重要になっているといえる。それらの検討については、下記外務省のホームページ等を参照されたい。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/bunya/security/index.html>

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/sogo/kaihatsu.html>

2. 国際教育カリキュラムの構想

「報告 2006」においては、議論の背景についての検討を通して、「大学をはじめとする教育関係者の状況と役割」について次のように述べている。

「我が国の教育関係者が置かれている状況に目を転じると、近年のグローバル化の中で大きな変化を見取ることができる。特に、高等教育については、近年、欧米諸国の多くの大学がアジア地域に海外分校の設置や留学プログラムの整備といった取組を積極的に展開しており、この結果、アジア地域から域外への留学生が増加の途を辿っている。我が国においてもアジア地域との連携・交流を重視する大学は増加してきているが、成長著しいアジア地域の高等教育需要に応えていくことが求められている。」「国公立大学を通じ、個性化・活性化の観点から国際展開を大学の特色として掲げる大学が増えており、中には、国際開発協力を積極的に参画し、教育研究機能の活用及びその向上に取り組む大学も見られる。」「初等中等教育においても、…（中略）…国際理解に関する教育の取組などが見られる。教員が国際開発協参画することで、教員の問題対処能力の向上や、国際理解教育・各教科教育における指導力の向上などが期待できることから、積極的に取

り組む教育委員会も増えている。」「このように、教育界におけるグローバル化というタイミングを活かし、NGO 等の教育協力の関係者を含めた我が国の教育関係者が有する知見・経験を国際開発協参画に活用するとともに、協力現場への教育関係者の一層の参画促進を図るという視点が援助関係者・教育関係者双方にとって重要である。」

この立場に立って、その「基本的な方向性」として次のように集約している。

＜教育協力を中心とした援助における課題＞

- ・貧困や感染症、災害、平和構築、エネルギー、環境など地球的規模の課題の解決・初等中等教育の完全普及過程における質的向上・持続的発展や EFA 目標を達成した国における高等教育・職業教育開発の必要性
- ・「選択と集中」による我が国 ODA 予算の効果的・効率的活用
- ・我が国が有する強みを最大限活かすとともに、相手国の状況に柔軟に対応した質の高い国際開発協参画の実践

＜我が国の教育における課題＞

- ・教育全般を通じた国際化・グローバル化への対応
- ・アジア地域を中心とした高等教育需要への対応
- ・国際開発協力への参画を通じた我が国の教育改善・大学改革

こうした検討を通して、取組を展開に期待する具体的な方策が次のような観点から提案されている。但し具体的な方策の後の括弧及びその中の番号については、「報告 2006」における提案と本学の国際教育の取組の関連を検討するために筆者が付記したものである。

- (1) 基礎教育分野における質的向上・持続的発展の促進
 - ①教育関係者を通じた教育ノウハウの提供 ((1)－①)
 - ②理数科教育などの我が国の教育上の知見・経験のオープンリソース化 ((1)－②)
 - ③基礎教育協参画に携わる国内関係者相互のネットワークの形成 ((1)－③)
 - ④南南協力への積極的貢献 ((1)－④)
- (2) 高等教育・職業教育分野における協参画の拡充
 - ①息の長い協力・交流を進める戦略の実現 ((2)－①)
 - ②高等教育・職業教育分野における知見・経験の蓄積・共有化 ((2)－②)
 - ③アジア地域における高等教育に関する相互理解の促進 ((2)－③)
- (3) 我が国教育関係者の連携の促進等
 - ①協力における連携の促進 ((3)－①)
 - ②国際開発協力人材の育成のための連携協力 ((3)－②)

③国際機関との連携の促進 ((3)－③)

④初等中等教育現場における国際理解教育の充実 ((3)－④)

⑤地域における外国人のための日本語教育の充実 ((3)－⑤)

さらにこのような取組における「大学の知を活用する意義と役割」について、次のようにまとめられている。

「貧困・飢餓、災害、地域紛争、感染症といった地球規模の困難な課題解決に向けて、先進各国には資金面だけではなく、知的貢献が求められている一方、これらはいずれも複合的で学際的取組が必要となる大きな課題であり解決が容易ではない。こうした背景の下、我が国が国際社会において責任ある役割を担い、知的貢献を果たすためには、知的源泉として大きな責務を有する大学を有効活用し、国際開発協力の質的向上に役立てていくという視点が必要である。このような国際貢献は、教育、研究、社会貢献という大学の役割の一翼を担う重要な取組であると言える。特に、自然科学分野に比べ競争的研究資金の種類が少ないといわれる人文・社会科学分野においては、国際開発協力への参画により、外部資金を得て、社会貢献とともに教育研究に役立つ実践フィールドの確保が期待できるなど、大学側にとっても参画する意義は大きい。」「大学の知を広く国際開発協力で活用するためには、開発途上国が抱える各種の開発ニーズと大学が有する援助リソース（研究成果や高度人材育成機能）双方に関する情報をオープンにし、相互のマッチングを行うことが必要である。このため、国際開発協力で参画する大学としても、開発ニーズの把握に努めるとともに、自らが有するリソースに関する情報を収集・公開する等の組織的な役割を果たすことが求められる。なお、上記のマッチングを機能させるためには、個々の大学の努力に加え、大学、援助機関、政府機関等の関係者が一体となって、前述の「基本的な方向性」において提案した「知的コミュニティ」を構築することが不可欠である。」

このような観点から、国際教育協力展開の内容と方法、国際化・グローバル化への対応、国際教育協力経験を通しての我が国の教育改善・大学改革等々の重要な視野が明確になってくる。このような視野は、本学の教育研究の重要な内容である教員養成、教員の力量向上と大きく関わってくるものであり、現職教員にとっても教育、研修の重要な内容となる。また児童・生徒はもとより市民にとっての望ましい国際化・グローバル化への主体的な対応の意味からも日常的、あるいは意図的な活動、経験は重要なものである。

ここで、確かめておきたいのは、今個人、家庭、地域、学校、社会はもとより、教員養成機関・研修機関等に期待されている国際教育を構想し実施していく上

で、国連の各種委員会で議論されている「人間の安全保障」および「持続可能な開発」の考え方・内容は必須のものであるという共通理解である。このことによって教育と活動が広がり、かつ重層的に深まっていくと考える。

3. 国際教育カリキュラムの構成と実施

上記でも述べたように、国際教育カリキュラムは主体的な国際化への対応のための多様な国際教育、国際理解等の考え方、内容、方法、評価を含む統合的な概念であるが、以下本学における具体的な開発事例（一部抜粋）について述べる。

・国際教育シンポジウム、フォーラムの実施プログラム、パンフレット

・国際教育フェスタプログラム

⇒ ((1)－③), ((1)－④), ((2)－①), ((2)－③), ((3)－①), ((3)－②), ((3)－③), ((3)－④), ((3)－⑤)

以下に示す国際教育シンポジウム、フォーラム、フェスタのプログラムの実際は、「報告 2006」の中で具体的な方策として示された次のような観点から位置づけることができる。・基礎教育協力で携わる国内関係者相互のネットワークの形成 ((1)－③)、・南南協力への積極的貢献 ((1)－④)、・息の長い協力・交流を進める戦略の実現 ((2)－①)、・アジア地域における高等教育に関する相互理解の促進 ((2)－③)、・協力における連携の促進 ((3)－①)、・国際開発協力人材の育成のための連携協力 ((3)－②)、・国際機関との連携の促進 ((3)－③)、・初等中等教育現場における国際理解教育の充実 ((3)－④)、・地域における外国人のための日本語教育の充実 ((3)－⑤)の観点である。なお()内の番号は、分類のために筆者が付けたものである。以下同じ分類による。

・研修受入実施プログラム

…理数科研修、…理数科研修、…数学科研修、
…理数科研修計画、…教員研修、…教員研修等

⇒ ((1)－①), ((1)－②), ((1)－③), ((1)－④), ((2)－①), ((2)－②), ((2)－③), ((3)－①), ((3)－②), ((3)－③)

・専門家派遣実施プログラム

…理数科研修、…理数科研修、…数学科研修、
…理数科研修計画、…教員研修、…教員研修、
…教員研修、…数学教育研修、…数学教育研修等

⇒ ((1)－①), ((1)－②), ((1)－③), ((1)－④), ((2)－①), ((2)－②), ((2)－③), ((3)－①), ((3)－②), ((3)－③)

・国際教育コース授業シラバス

国際教育協力研究シラバスと受講生の授業ノート

国際教育現地理解研究シラバスと受講生の授業ノート

国際教育協力演習（…での実践）

⇒ ((1)－①), ((1)－②), ((2)－②), ((3)－②),
((3)－③), ((3)－⑤)

・国際教育カリキュラムの評価

外部評価 総合的評価より一部抜粋

内部評価 事業評価の例（センター事業評価、…事業報告より）

授業評価（国際教育協力研究、国際教育現地理解研究の受講生の授業評価より）

⇒ ((1)－①), ((1)－②), ((1)－③), ((1)－④), ((2)－①),
((2)－②), ((2)－③), ((3)－①), ((3)－②), ((3)－③),
((3)－④), ((3)－⑤)

これら国際教育に関わる開発事例については、資料としてその一部を掲載することとする。

4. おわりに

これまで述べてきた国際教育についての様々な実践・活動については、目的・目標を明確にし、それを実現するための内容・方法を構築しつつ、多様な観点による実態の把握のもと実践を展開してきた。教員教育国際協力センターに関わる事業とその評価についてはセンター事業実施報告書、及びセンター事業評価（外部評価を含む）を参照していただきたい。勿論こうした事業展開では、P－D－C－Aサイクルの観点が重要である。こうした観点からどの段階をどのように見直すことが目的・目標の実現や接近につながるのかを検討することである。

またこれまでに報告してきたように個々の事業については、それぞれ活動のプログラムが準備されてきた。それも継続的な事業では以前の実施を下敷きにしながら改善が進められてきた。しかしそうした個々のプログラム間の関係がどのように保たれているのか。個々のプログラムを統合したときに何が実現できるのか、何に近づけるのか。こうした観点からの検討を通して個々のプログラムの統合体としての国際教育カリキュラムの意義がより明確になると考えられる。この意味からも前述センター事業実施報告書、センター事業評価は国際教育カリキュラムの一部をなしていると考えられるとともに、課題も見えてくるものがある。ところで前述の「報告2006」の中では次の3つの内容によって整理されている。

- (1) 基礎教育分野における質的向上・持続的発展の促進
- (2) 高等教育・職業教育分野における協力の拡充
- (3) 我が国教育関係者の連携の促進等

そしてこの3つの内容を構成する12の項目を設定している。この12の項目の視点から、本学が展開し

てきた国際教育の取り組みを位置づけてみた。このことからこれまでの本学の取り組み、活動は多様な位置づけが可能である。換言すれば、これらの観点をもとに加除修正した目標・評価項目を策定することによって、本学の国際教育に関する計画、実践、評価、すなわち国際教育カリキュラムを検討することが可能であるということである。

今後こうした国際教育の目標、内容、計画、実施、評価等々をトータルとしてとらえた国際教育カリキュラムについて検討を加え、更なる提案、実施につないでいきたいと考える。

こうした観点からも、前述「報告2006」は国際教育の視野と大学としての展開の方向を検討する意味において重要である。大学の役割として教育、研究とともに社会貢献の重要性が確認されている今、同報告の中の「国際社会における責務を果たし、開発途上国の様々な課題をより効果的に解決するために大学をはじめ我が国が有する「知」を活かした国際協力を推進する」こととともに、その経験と成果を地域の小学校、中学校、高等学校他教育関係機関はじめ、地域との連携の中で生かしていくことが重要である。このことは大学の教育、研究に還元するとともに、その実践フィールドの拡大に繋がる意味からも、その役割は大きいものがあるといえる。さらに地域、大学等での展開を通して、国際教育のあり方を見直すとともに、新たな展開の視野を得ることができるといえる。

こうした立場から、個々のプログラムを統合する考え方、内容の焦点化を図るとともに、個々のプログラムの特性を明確にすることが必要である。そして国際教育カリキュラムの構造と個々のプログラムとの関連を明確にすることが必要である。

このことによって国際教育の立場からの教員養成、教員の力量向上への役割を果たすことはもとより、地域の学校をはじめ広く地域社会への貢献が明確になる。こうした積み上げによって大学、関係機関への国際教育、国際教育協力への具体的な提案に繋がるといえる。ここでは、その意味から国際教育カリキュラムについて検討し提案する1つの視野について述べた。

今後本学の国際教育の計画、実践、評価に基づく検討を通して、我が国の国際教育の進展に繋がる国際教育カリキュラムの提案がなされることを期待している。

引用・参考文献及び関連文書等

- 1) 国際教育協力懇談会、国際教育協力懇談会報告
2006、2006年8月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/003/boshu/06071904/001.htm

2) 人間の安全保障委員会最終報告書要旨, 人間の安全保障委員会事務局, 2003 年 5 月
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/bunya/security/index.html>

3) 我が国における「国連持続可能な開発のための教育 10 年」実施計画, 「国連持続可能な開発のための教育 10 年」関係省庁連絡会議, 平成 18 年 3 月 30 日
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/sogo/kaihatsu.html>

4) 万人のための教育 (EFA : Education for All)

1990 年に「万人のための教育 (EFA : Education for All) 世界会議」(タイ・ジョムティエン), 2000 年に「世界教育フォーラム」(セネガル・ダカール) が開催され, EFA 達成の指標となる 6 つの国際目標が設定された. 2002 年のカナナスキス・サミットでは「成長のための基礎教育イニシアティブ」が発表された. 「ダカール行動枠組み」による EFA へ向けた目標

- ①修学前教育の拡大・改善
- ②無償で良質な初等教育の完全普及 (2015 年まで)
- ③青年・成人の学習ニーズの充足

④成人識字率の 50%改善 (2015 年まで)

⑤初等・中等教育における男女間格差の是正 (2005 年まで)

教育における男女平等の達成 (2015 年まで)

⑥教育のあらゆる面での質的向上

5) 国連ミレニアム開発目標 (MDGs)

2000 年 9 月国連ミレニアム宣言を採択 (189 の全加盟国). 2015 年までに達成すべき, 8 つのミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals) を設定.

①極度の貧困と飢餓の撲滅

②普遍的な初等教育の達成

③ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

④幼児死亡率の引き下げ

⑤妊産婦の健康状態の改善

⑥ HIV / エイズ, マラリア, その他の疾病の蔓延防止

⑦環境の持続可能性の確保

⑧開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

国際交流フェスタ実施計画(案)

1 テーマ

－ Naruto in the World The World in Naruto －

2 趣 旨

・大学に在籍する留学生や教員研修留学生，外国人研究員と日本人学生及び地域住民の交流の場を提供することで，新たな地域国際化ネットワークの創出並びに国際協力活動についての幅広い理解のきっかけをつくる。

今年度は日本語教育分野と連携し，大学祭という環境に合わせた斬新でユーモアセンスのある観客の視点に立った誰もが親しみやすく国際知識を学べるものを実施する。

内容を二部構成とし，第一部では Skype（スカイプ）の回線を使って直接リアルタイムで外国と交信し，現在国際教育協力を行っている本学の日本人学生OB（OG）や海外で活躍する日本人及び本学を修了した学生，外国人留学生等と実像付きで直接会話をを行う。

また，第二部では日本人学生及び留学生による民族衣装のファッションショーを行う。

これらの内容を通して，異文化への興味を深め，国際理解を深める。

3 主 催

・大学・センター，・教育分野，・祭実行委員会

4 後 援

・機構，・委員会，・協会

5 実施日時及び会場

平成・年・月・日（・）14:00～16:00 ・大学・祭特設ステージ
（雨天時の場合：体育館特設ステージ）

6 対 象

本学留学生，外国人研究員，教員，学部生，大学院生，地域住民（小・中・高校生，保護者 含む）

7 プログラム

14:00 開 会 （司会 ・センター所長）：・祭特設ステージ
14:05 第 一 部 海外では何をしているの？（司会 ・）
（Skypeを使用した学生，観客参加ディスカッション）
15:00 第一部終了
15:00 第 二 部 民族衣装ファッションショー（司会 ・）
16:00 終 了 （まとめ ・・・・）

※ フェスタ開催の様子は，リアルタイムでインターネット配信も行う。

http://incet.naruto-u.ac.jp/festa2007_live.html

国際教育オープンフォーラム実施計画（案）

1 テーマ

インターナショナルフェスタ・・・
～世界とつながる日本，世界とつながる徳島～

2 趣 旨

本学の豊富な国際協力経験を踏まえ，現職教員，児童・生徒・学生及び一般が親しみやすい活動を企画・実施し，国際教育協力に対する理解を深める。また本学が取り組んできている国際教育協力事業の意義と内容についてより広く共有できるように努め，その事業展開のさらなる活性化への視野を明らかにする。

なお，本事業では，対象者の多様な興味，関心に対応するため，実施プログラムの企画・運営を工夫する。

また，・・・県内の国際交流支援団体との連携を深め，本県・地域で取り組む国際交流活動の一層の活性化への基盤づくりに寄与する。

3 主 催 等

・・・大学・・・センター（共催及び後援）・・・機構，・・・委員会，・・・協会

4 実施日時及び会場

平成・年・月・日（・）13:00～16:30

・・・ホール（・・・会館）（・・・市・・・番地 TEL・・・）

5 対 象

現職教員，児童・生徒・学生，一般

6 プログラム（内容については共催予定団体と調整中）

第1部 13:00-14:30

総合司会：・・・（・・・大学・・・センター）

（1）主催者あいさつ：・・・大学長・・・

（2）パネルディスカッション

「シニア海外ボランティアをとおして，見たこと，聞いたこと，考えたこと」

司会：・・・（・・・大学・・・センター）

パネリスト：シニアボランティア（教育分野）・・・（理数科），・・・（理科教育）他

趣旨：日本の教育に知見のあるシニアボランティアが海外で実施した国際協力経験を紹介し，その日本の教育への還元を共有し，今後の方向性を探る。

第2部 15:00-16:30

第1分科会 「参加型授業のネタをゲット～教室から世界をのぞこう！ 国際理解教育実践セミナー～」
教員を対象として国際理解教育の手法をワークショップ形式で学ぶ。

第2分科会 「子どもから大人まで 留学生と一緒に～きいてみよう やってみよう世界のクリスマス～」

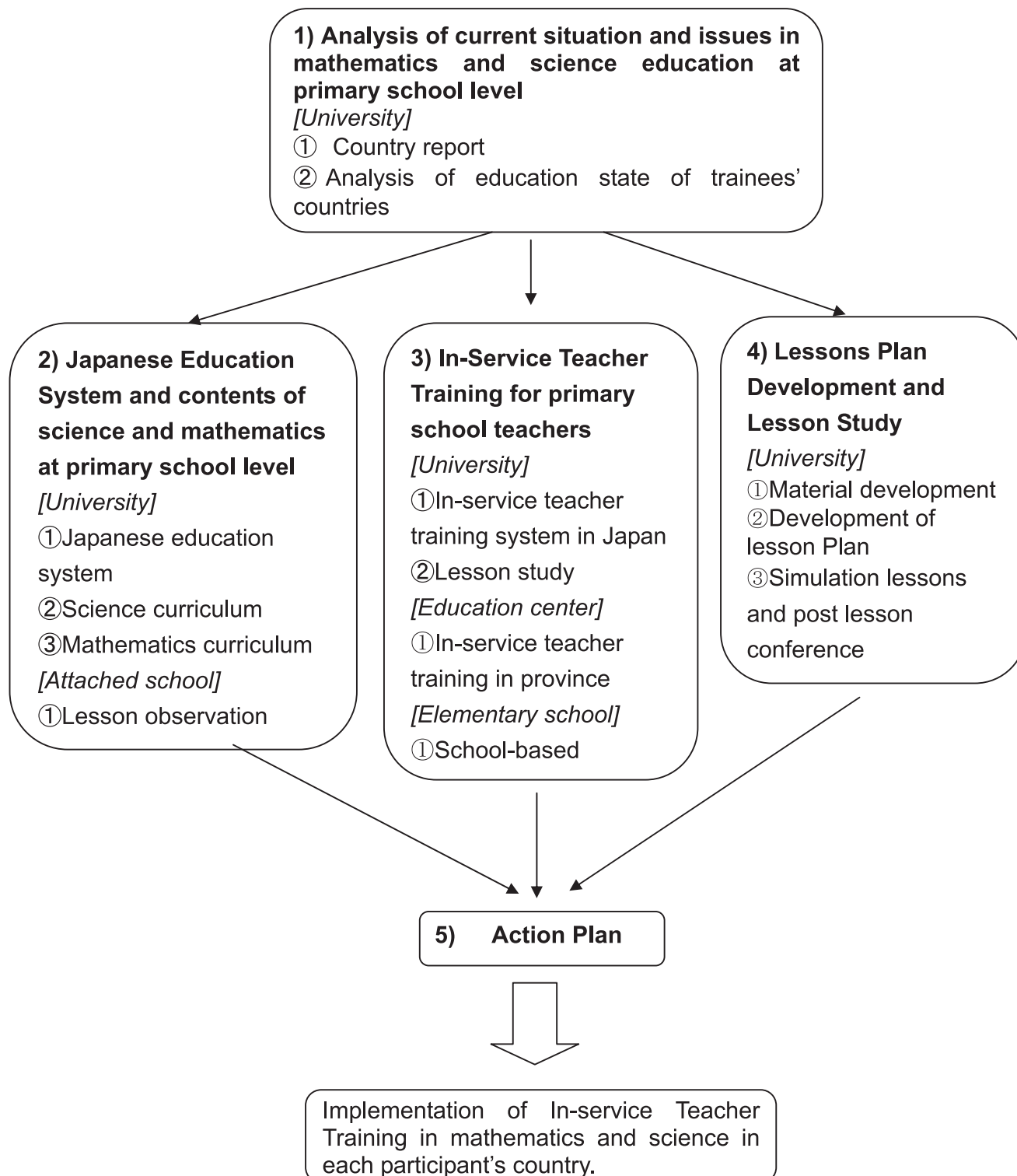
・・・大学の留学生とコミュニケーションをはかりつつ現地理解・交流を進める。

・・・団体ポスター展示（メイン会場後方）

12:00-16:00 （14:30-15:00 は展示者がポスター前で説明，12:00 までに展示）

本事業に係る施設・設備借上費及び・・・大学・・・センター（＝以下「主催機関」）が認める広報費，物品購入・貸借費及び旅費・謝金については，主催機関の取り決めに即した形で費用を担うものとする。

<Structure of the program>



案件目標

理数科において児童中心のアプローチを適用するための現職教員研修を実施する適切な能力を習得する。

単元目標

①小学校教育の理数科教育に関する自国の抱える教育課題の分析

②日本の教育システムと小学校教育教材

③現職小学校教育に対する取り組みにおける教員研修

④指導計画と授業研究

⑤アクションプラン

現職教員研修の効果的な実施のためのアクションプランが作成できる：

地域特設「・・・地域小学校教育改善」全体概念図

研修項目・内容

月日	研修項目	形態	担当者(研修場所)
・月・日	オリエンテーション、開講式	実習	AM・・・PM・・・
・日	各国の教育の現状と課題報告 表敬訪問	実習	・・・PM・・・
・日	課題分析ワークショップ	講義・実習	・・・
・日	課題分析ワークショップ	講義・実習	・・・
・日	課題分析・アクションプラン作成ワークショップ	講義・実習	・・・
・日	理数科カリキュラム研究	講義・実習	・・・]
・日	算数教材研究及び理科教材研究	講義・実習	算数：・・・、理科：・・・
・日	算数教材研究及び理科教材研究	講義・実習	算数：・・・、理科：・・・
・日	日本の教員研修情報・ICT教員研修	講義・実習	(・・・教育センター)
・日	AM算数教材研究及び理科教材研究	講義・実習	算数：・・・、理科：・・・
・日	PM日本の教育制度、学校制度	講義・実習	・・・
・日	AM公立小学校教育の教員研修	講義・視察	(・・・小学校)
・日	AM・・・幼稚園・PM・・・小学校訪問	視察	AM(・・・幼稚園)、PM(・・・小学校)
・日	AM校内研修ワークショップ	講義・実習	・・・
・日	PMアクションプラン等意見交換会	実習	・・・
・日	学習指導案作成ワークショップ	講義・実習	AM・・・、PM・・・
・日	学習指導案作成	講義・実習	・・・
・日	第1回模擬授業とその検討	実習	・・・他
・日	学習指導案の修正・改善	実習、視察	・・・他、PM(・・・学校)
・日	学習指導案の修正・改善	実習	・・・他
・日	学習指導案の修正・改善	実習、視察	・・・他、PM(・・・中学校)
・日	第2回模擬授業とその検討	実習	・・・他
・月・日	課題分析シート等検討会	講義・実習	・・・
・日	理数科授業計画と理数科授業研究	講義・実習	・・・中学校・高等学校
・日	指導計画と学習指導案まとめ	実習	・・・
・日	アクションプラン作成	実習	・・・他
・日	アクションプランまとめ	実習	・・・他
・日	PM・・・大学におけるICT教育のカリキュラムと実際	講義・視察	(・・・大学・・・キャンパス)
・日	AM・・・大学における教員養成カリキュラム	講義・視察	(・・・キャンパス)
・日	AM・・・小学校授業参観	視察	AM(・・・小学校、PM・・・
・日	研修成果報告会発表	実習	・・・
・日	研修成果報告会、評価会、閉講式	実習	・・・

研修目標(単元目標)に照らして、達成度をA、B、C、Dの4段階で、担当講師が評価する。

研 修 日 程

【第1週】

月	日	曜	時 間	内 容	担 当	場 所
・	・	・	09:00 - 10:00	コース説明, 顔写真撮影	・, ・, ・	・ 会議室
			10:00 - 10:30	学長表敬訪問	・, ・, ・	学長室
			10:30 - 12:00	学内案内	・, ・, ・	・ 会議室
			12:00 - 13:00	(昼食)	—	—
			13:00 - 13:45	開講式	(詳細別紙)	・ 会議室
			14:00 - 15:30	コースオリエンテーション	・, ・, ・	
			15:30 - 17:00	【実習】各国の教育の現状と課題報告	・, ・, ・	
・	・	・	09:30 - 13:00	【実習】各国の教育の現状と課題報告	・, ・, ・	・ 会議室
			13:00 - 14:20	(昼食)	—	—
			14:20 - 15:00	[移動] 大学→・・県教育委員会	研修管理員	—
			15:00 - 16:00	【表敬訪問】・・県教育委員会	・, ・, ・	・ 委員会
			16:00 - 17:00	[移動]・・県教育委員会→ホテル	研修管理員	—
・	・	・	09:00 - 12:30	【講義・実習】課題分析ワークショップ	・, ・, ・	・ 会議室
			12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 - 17:00	【講義・実習】課題分析ワークショップ	・, ・, ・	・ 会議室
・	・	・	09:00 - 12:30	【講義・実習】課題分析ワークショップ	・, ・, ・	・ 会議室
			12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 - 17:00	【講義・実習】課題分析ワークショップ	・, ・, ・	・ 会議室
・	・	・	09:00 - 12:30	【講義・実習】課題分析ワークショップ	・, ・, ・	・ 会議室
			12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 - 17:00	【講義・実習】アクションプラン作成ワークショップ	・, ・, ・	・ 会議室

【第2週】

月	日	曜	時 間	内 容	担 当	場 所
・	・	・	09:00 - 12:30	【講義・実習】理数科カリキュラム研究	・, ・, ・	・ 会議室
		・	12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
		・	13:30 - 17:00	【講義・実習】理数科カリキュラム研究	・, ・, ・	・ 会議室
・	・	・	09:00 - 12:30	(算数)【講義・実習】解析分野の教材研究 (理科)【講義・実習】化学分野の教材研究	(算数) ・ (理科) ・, ・	(算数) ・ 会議室 (理科) ・
			12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 - 17:00	(算数)【講義・実習】算数教材開発研究 (理科)【講義・実習】生物分野の教材研究	(算数) ・ (理科) ・	(算数) ・ 会議室 (理科) ・
・	・	・	09:00 - 12:30	(算数)【講義・実習】 (理科)【講義・実習】	(算数) ・	(算数) ・ 会議室

				代数分野の教材研究	地学分野の教材研究	(理科) ・	(理科) ・ ・
		12:30 - 13:30		(昼食)		—	—
		13:30 - 17:00		(算数)【講義・実習】 幾何分野の教材研究	(理科)【講義・実習】 物理分野の教材研究	(算数) ・ (理科) ・	(算数) ・ 会議室 (理科) ・ ・
・	・	・	09:15 - 10:00	[移動] ホテル→・ ・ 教育センター		研修管理員	—
			10:00 - 12:00	【講義・実習】日本の教員研修情報		・ , ・ , ・	・ ・ 教育センター
			12:00 - 13:00	(昼食)		—	—
			13:00 - 16:00	【講義・実習】ICT 教員研修		・ , ・ , ・	・ ・ 教育センター
			16:00 - 17:00	[移動] ・ ・ 教育センター→ホテル		研修管理員	—
・	・	・	09:00 - 12:30	(算数)【講義・実習】 日本の算数教育	(理科)【講義・実習】 日本の理科教育	(算数) ・ (理科) ・	(算数) ・ 会議室 (理科) ・ ・
			12:30 - 13:30	(昼食)		—	—
			13:30 - 17:00	【講義・実習】日本の教育制度, 学校制度		・	・ 会議室

【第3週】

月	日	曜	時 間	内 容	担 当	場 所
・	・	・	08:00 - 08:20	[移動] ホテル→・ ・ 小学校	研修管理員	—
			08:20 - 12:20	【講義】公立小学校の教員研修	・ , ・	・ ・ 小学校
			12:20 - 12:35	[移動] ・ ・ 小学校→ホテル	研修管理員	—
			12:35 - 13:00	(昼食)	—	ホテル
			13:00 - 13:15	[移動] ホテル→・ ・ 小学校	研修管理員	—
			13:15 - 14:00	【視察】児童との交流会	・ , ・	・ ・ 小学校
			14:00 - 15:00	【視察】公立小学校の授業参観	・ , ・	
			15:30 - 17:15	【視察】授業研究協議	・ , ・	
			17:15 - 17:30	[移動] ・ ・ 小学校→ホテル	研修管理員	—
・	・	・	08:00 - 09:00	[移動] ホテル→・ ・ 幼稚園	研修管理員	—
			09:00 - 12:00	【視察】・ ・ 幼稚園訪問	・ , ・ , ・	・ ・ 幼稚園
			12:00 - 12:10	[移動] ・ ・ 幼稚園→・ ・ 小学校	研修管理員	(徒歩)
			12:10 - 13:00	(昼食)	—	・ ・ 小学校
			13:00 - 16:00	【視察】・ ・ 小学校訪問	・ , ・ , ・	
			16:00 - 16:30	[移動] ・ ・ 小学校→ホテル	研修管理員	—
・	・	・	09:00 - 12:00	【講義・実習】校内研修ワークショップ	・ ・	・ 会議室
			12:00 - 13:00	(昼食)	—	—
			13:00 - 17:00	【実習】アクションプラン等意見交換会	・ , ・ , ・	・ 会議室
・	・	・	09:00 - 12:30	【講義・実習】学習指導案作成ワークショップ	・	・ 会議室
			12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 - 17:00	【講義・実習】学習指導案作成ワークショップ	・ , ・	・ 会議室
・	・	・	09:00 - 12:30	【講義・実習】学習指導案作成	・ , ・ ・ , ・	・ 会議室
			12:30 - 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 - 17:00	【講義・実習】学習指導案作成	・ , ・ , ・ , ・	・ 会議室

【第4週】

月	日	曜	時 間	内 容		担 当	場 所
・	・	・	09:00－12:30	(算数)【実習】第1回 模擬授業とその検討	(理科)【実習】第1回 模擬授業とその検討	・,・,・ ・,・	(算数)・会議室 (理科)・・
			12:30－13:30	(昼食)		—	—
			13:30－17:00	(算数)【実習】第1回 模擬授業とその検討	(理科)【実習】第1回 模擬授業とその検討	・,・ ・,・,・	(算数)・会議室 (理科)・
・	・	・	08:50－12:20	(算数)【実習】学習指 導案の修正・改善	(理科)【実習】学習指 導案の修正・改善	・,・,・ ・,・,・	(算数)・会議室 (理科)・・
			12:20－13:00	(昼食)		—	—
			13:00－13:30	[移動] 大学→・・・学校		研修管理員	—
			13:30－17:00	【視察】・・・学校訪問		・,・,・	・・・学校
			17:00－17:30	[移動]・・・学校→ホテル		研修管理員	—
・	・	・	09:00－12:30	(算数)【実習】学習指 導案の修正・改善	(理科)【実習】学習指 導案の修正・改善	・,・ ・,・	(算数)・会議室 (理科)・・
			12:30－13:30	(昼食)		—	—
			13:30－17:00	(算数)【実習】学習指 導案の修正・改善	(理科)【実習】学習指 導案の修正・改善	・,・ ・,・	(算数)・会議室 (理科)・・
・	・	・	08:50－12:20	(算数)【実習】学習指 導案の修正・改善	(理科)【実習】学習指 導案の修正・改善	・,・ ・,・	(算数)・会議室 (理科)・・
			12:20－13:00	昼食		—	—
			13:00－13:30	[移動]・・・→・・・中学校		研修管理員	—
			13:30－17:00	【視察】・・・中学校訪問		・,・,・	・・・中学校
			17:00－17:30	[移動]・・・中学校→ホテル		研修管理員	—
・	・	・	09:00－12:30	(算数)【実習】第2回 模擬授業とその検討	(理科)【実習】第2回 模擬授業とその検討	・,・ ・,・	(算数)・会議室 (理科)・・
			12:30－13:30	(昼食)		—	—
			13:30－17:00	(算数)【実習】第2回 模擬授業とその検討	(理科)【実習】第2回 模擬授業とその検討	・,・ ・,・	(算数)・会議室 (理科)・・

【第5週】

月	日	曜	時 間	内 容	担 当	場 所
・	・	・	09:00 – 12:30	【実習】課題分析シート等検討会	・・・	・会議室
			12:30 – 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 – 17:00	【実習】課題分析シート等検討会	・・・ ・, ・, ・	・会議室
・	・	・	09:00 – 12:30	【講義・実習】 理数科授業計画と理数科授業研究	・, ・ ・	・会議室
			12:00 – 13:30	(昼食)	—	—
			13:30 – 17:00	【講義・実習】 理数科授業計画と理数科授業研究	・, ・, ・	・会議室

・	・	・	09:00－12:30	【実習】指導計画と学習指導案まとめ	・,・,・	・ 会議室
			12:30－13:30	(昼食)	—	—
			13:30－17:00	【実習】指導計画と学習指導案まとめ	・,・,・	・ 会議室
・	・	・	09:00－12:30	【実習】アクションプラン作成	・,・,・	・ 会議室
			12:30－13:30	(昼食)	—	—
			13:30－17:00	【実習】アクションプラン作成	・,・,・	・ 会議室
・	・	・	09:00－12:30	【実習】アクションプランまとめ	・,・,・	・ 会議室
			12:30－13:30	(昼食)	—	—
			13:30－17:00	【実習】アクションプランまとめ	・,・,・	・ 会議室

【第6週】

月	日	曜	時 間	内 容	担 当	場 所
・	・	・	08:30－12:30	[移動] ホテル→・・・大学 (途中昼食)	研修管理員	—
			12:30－17:00	【講義・視察】 大学における ICT 教育のカリキュラムと実際	・,・,・	・・・大学・・・キャンパス
			17:00－18:30	[移動]・・・大学→・・・	研修管理員	—
・	・	・	09:30－10:00	[移動]・・・市内ホテル→・・・大学	研修管理員	—
			10:00－12:30	【講義・視察】 ・・・大学における教育養成カリキュラム	・,・,・	・・・大学
			12:30－13:30	(昼食)	研修管理員	—
			13:30－17:30	【講義・視察】 ・・・大学における教育養成カリキュラム	・,・,・	・・・大学
			17:30－19:00	[移動]・・・大学→ホテル	研修管理員	—
・	・	・	08:15－09:00	[移動] ホテル→・・・小学校	研修管理員	—
			09:00－12:00	【視察】・・・小学校授業参観	・,・,・	・・・小学校
			12:00－12:45	[移動]・・・小学校→大学	研修管理員	—
			12:45－13:15	(昼食)	—	—
			13:15－17:15	研修成果報告会準備	・,・,・	・ 会議室
・	・	・	09:00－12:00	研修成果報告会発表	・,・,・	・ 会議室
			12:00－13:00	(昼食)	—	—
			13:00－17:00	研修成果報告会発表	・,・,・	・ 会議室
・	・	・	09:00－11:00	研修成果報告会発表	・,・,・	・ 会議室
			11:00－11:30	閉講式	(詳細別紙)	—
			11:30－14:00	(昼食)	—	・・・会館
			14:00－15:00	評価会	・・・	・ 会議室

業務完了報告書(一部抜粋)

1. 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

（１）案件目標（アウトカム）

案件目標：初等中等教育の理数科分野現職教員の校内研修に携わる学校／教育行政機関において、研修の運営管理に関わる改善計画案が共有される

指標：研修員が帰国後３ヶ月以内に提出予定の改善計画案の提出状況及び内容を基に評価するため、研修履行期間内での評価は不可。（・・・にて評価を行う点、確認済み。）

（２）単元目標（アウトプット）

単元目標①：各国の教員研修に係る課題が整理される。

指標：研修員が研修中に作成した改善計画案の「課題」とその「問題点」に関する記述の４段階評価がＢ（やや優れている）以上。

単元目標②：校内研修の運営管理に係る仕組み、各行政レベルに求められる役割が整理される。

指標：研修員が研修中に作成した改善計画案の「研修を通して学んだ知識・経験」「自分の部署・自国で実施できそうな対策」の記述の４段階評価がＢ（やや優れている）以上。

単元目標③：校内研修の事例から具体的な改善計画案が作成される。

指標：研修員が作成した改善計画案の記述をチェックシートを用いて評価し、その４段階評価がＢ（やや優れている）以上。

単元目標④：研修員が策定した改善計画案が所属組織の関係者間で共有され、その実施のためのポイントが所属先によって整理される。

指標：研修終了時での評価であるため、研修履行期間内で評価できない。（後日、・・・にて評価する。）

2. 測定達成度結果（上記達成度の判断根拠およびデータ）（略）

(1) デザイン（研修期間・カリキュラムの構成）

研修期間は４週間であり、教員研修改善案作成・改善については土曜・祝日も用いて実施し、十分な研修日数の確保に努めた。

全体カリキュラムは、講義、実習、視察からなり、課題分析ワークショップにより研修員の経験を共有し課題を整理した後、全ての講義、実習、視察を行い、その結果をもとにアクションプランを作成できるよう配慮した。

(2) コンテンツ（カリキュラム内容・研修教材）

「日本の教育システム」の講義を行った後、・・・小学校の視察を実施し言葉だけの説明ではわかりにくい「生徒中心型授業」の具体的なイメージを研修初期にもってもらったようにした。「日本の教員養成」「指導案」「授業研究概論」などの校内研修の基盤を支えるものに関する講義、現場レベルの教員を交えて日本の研修の姿を詳細に記述する講義である「小学校の学校運営」を提供した。総合教育センターにおける「地域の教育研修」では教員のキャリアにあわせた研修プログラムおよび校内研修支援のためのハンドブックが紹介された。・・・小学校における「小学校の運営」「校内研修の実践」といった現場視察による事例観察で校内研修が実際に実施されている様子を把握した。以上のように講義・実習・視察を効果的に組み合わせ、校内研修の運営管理にかかわる仕組みと各行政レベルに求められる役割を整理し、事例より具体的な改善計画案作りに役立つ情報を提供した。

講義テキストについては全て仏語に翻訳し、講義／実習終了後の研修員の自主学習に配慮した。

(3) ファシリテーション

課題分析シートの利用、課題分析ワークショップやアクションプラン作成方法といった演習形式の活動により、研修員が自らの課題を整理し、その課題に対する改善案を考えやすいよう工夫し

た。また基本的に毎日リフレクションの時間をとり、研修員が前日に学んだことを整理し、自国の教育にいかに応用するかを発表してもらい、研修員間の意見共有と協同学習を意図した。

(4) 研修員（資格要件の妥当性・専門性・理解力・意欲）

資格要件に外れた研修員はいなかった。研修員は、各国の現職研修に関連した教育行政官あるいは学校管理職であり、教育に対する高い専門性をもっていた。また講義や実習、視察でも意欲的であり、詳細な講義ノートや観察記録をとり、積極的に質問を行っていた。その結果日本の校内研修についてよく理解していた。

(5) 研修環境

研修運営体制としては、・・・，・・・，受入機関が協力してコースを問題なく終了することができた。

(6) 事前活動（事前活動のある案件についてのみ記載）

研修の事前活動として、昨年度の研修のフォローアップをかねて・・・国を・・・および受入機関教員が訪問した。昨年度研修参加者を含む教育省関係者との協議、学校現場視察におけるビデオ教材収録、理数科教科書等の収集を実施した。協議をふまえ、昨年度の改善計画案実施と密接に関連した研修員が来日した。関係者との協議をふまえ研修プログラムが改善され、また現地の実情をふまえたビデオ教材や教科書は研修の中で活用され授業研究の理解に高い効果をあげた。

各国の研修員は日本側から指定したテーマに関し、A 自国のかかえる課題 B その要因 C 現在実施している対策 D 研修で学びたい知識・経験について課題分析シートへの記入を求められていたが、全研修員が研修開始までに記入を終わらせ提出した。

(7) 事後活動（事後活動のある案件についてのみ記載）

研修員は帰国後所属組織での関係者に向けて日本で作成した教員研修改善案のプレゼンテーションを行い、教員研修改善案に対し関係者から意見収集を行うことになっている。そのフィードバックをふまえ必要に応じて教員研修改善案を修正し、実施計画案とともに帰国後 3 ヶ月以内に在外事務所へ提出することとなっているが、本報告書の作成時点では帰国後 1 ヶ月もないということもあり、まだ提出はなされていない。

(8) その他の特記事項

この研修実施と同時期に、・・・大学では・・・からの研修員を受け入れており、研修担当者間の調整により 6 カ国の教育関係者による意見交換の場を設けることができた。研修員たちはそれぞれ自国の課題と日本で学んだこと・自国に応用したいことについて経験を共有し、建設的な議論を行っていた。国は異なっても教育の抱える課題は共通のものが多く、意見交換は非常に実りの多いものであった。

3. 次年度へ向けた改善点及び提案

(1) 評価会及び反省会における指摘事項

研修開始時に実施した「課題分析ワークショップ」は、研修員の経験を共有し、課題を整理する上で大変有益であったが、配当されていた時間が 1 日とやや短く、問題分析および目的分析を行うにはいたらなかった。一部の講義において必要資料の翻訳が不十分なものが散見された。

(2) 次年度以降の改善計画（案）

上記を踏まえて「課題分析ワークショップ」については 2 日間、「アクションプラン作成方法」についても 2 日間の時間を確保する。また来年度はより学校現場に近い指導主事や学校長が研修員候補として期待される。研修の中身も校内研修を実際に体験する演習などを増やしていく必要がある。

(3) 次年度 G I に反映させるべき点

来年度の研修内容は、学校現場に応用可能なより実践的なものとなることが想定され、今年度の改善計画案と密接に関連した人材が参加する必要がある、このことを明記する。

【領域等内容科目 国際教育協力】

37111000 国際教育協力研究
(Studies on International Educational Cooperation)

担当教員・研究
室番号

標準履修年次 大学院1・2年
単位区分 選択必修

開講時期 集中講義
授業形態 講義
単位数 2

備考

キーワード 教育協力 事例研究 基礎教育 理数科教育 教師教育

連絡先・オフィスアワー
別途提示する。

【授業の目的及び主旨・到達目標】

これまでの我が国の教育協力をレビューするとともに、これからの新時代の協力のあり方を検討する。時代とともに、教育協力の発想と枠組みも変化してきているが、これについて代表的な協力事例、他国や国際機関、NGOなどの協力活動を通じて点検する。

また担当教員が関わってきた基礎教育、理数科教育、教師教育などの事例についてケース・スタディを進める。これらを通じて今後の教育協力の発想、方法、具体的な活動計画などをグループ活動、個人研究、フォト・リーディング、参加活動、ワークショップ方式等によって相互に学ぶ。このとき、担当教員の著作の輪読、批評活動も含む。

【授業計画】

〈第1日〉

1週～2週 講師の自己紹介、受講院生の自己紹介、必読参考図書を紹介など。
開講オリエンテーション。予備的な作業
受講院生の基礎的な知識、体験、近い将来の活動計画など
なぜ、いま途上国の教育協力をするのかその意義。

3週～4週 教育協力の枠組みの変化。
各種教育プロジェクトが「現場の教師を苦しめる」ことの考察。
スリ・ランカ紛争地域への良質黑板の供給プロジェクトの再点検。
フォト・リーディング1。

〈第2日〉

5週～6週 途上国から日本の教育制度（システム）は、どう見えるのか。
途上国の教育協力は、どのように日本の教育にフィード・バックするか。
単一モードの協力、多層モードの協力・協力の発想を広げる試み。
タイIPSTで講義担当者が、現在取り組んでいる協力事例の紹介。
受講院生の協力活動の想定案、暫定案の検討の開始。
フォト・リーディング2。

〈第3日〉

9週～12週 ★バングラディシュ、ネパールなどの後発開発途上国での協力活動
を考える。
★アフリカのケニア、タンザニアでの協力活動を考える。
プレゼンテーションの準備活動、ポートフォリオ構想。

〈第4日〉

13週～16週 グループ、または個人の協力プロジェクト構想計画の発表と討議。
プレゼンテーションの準備とポートフォリオ制作活動。
担当講師は、支援と助言活動をする。

【履修上の注意事項】

（履修上の注意事項）

一方通行型の講義ではなく、双方向の多少の作業活動を含むものにする。そのため受信型ではなく発信型の参加性の発揮が望ましい。

【成績評価方法】

出席状況、様々な学習・研究への参加意欲・態度、レポート・報告・試験等成果の状況を総合的に評価する。

【テキスト・参考文献】

テキスト・参考文献）

必要に応じて、担当講師がリストを用意するとともに、別刷りなどを配布することになっている。

Session 3

Education = Instruction
= Training

Education → Expect of some happen
by learner + self

- ① Concept 概念
- ② Knowledge 知識
- ③ skills 技能

What: contents 内容 → { Basic / Common Topic
Apply / difficult Topic

How: method 方法

Course of Study (学習指導要領)

MOE (文部省)

国本教科書
選定

Committee of C.O.S
↓
All of schools

Inspectors each Teaching Subjects

private Pub.

5 companies

A B C D E

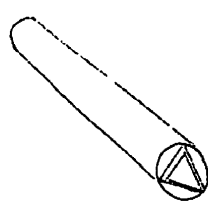
Committee

draft version → Sample of Textbook

Session 4

資料 16.3 OES lab Production list 2008

Kaleidoscope 万華鏡

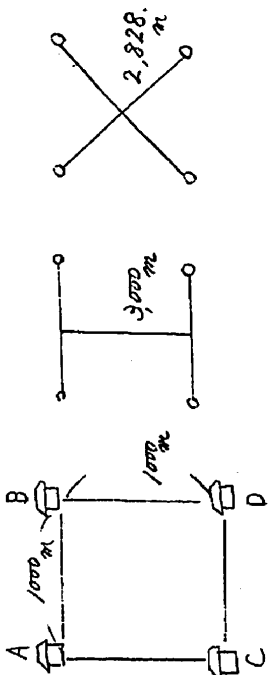


outside

sketch / scene which has

home work ②

数学的
物理的
解決法



What is the shortest way?

Educational Cooperation projects
School Teachers
Curriculum
Text book, Test

【領域等・方法科目 国際教育協力】

37171000 国際教育現地理解研究

(Studies on Understanding of International Educational Cooperation Field)

担当教員・研究室番号

標準履修年次 大学院1・2年

単位区分 選択必修

開講時期 集中講義

授業形態 講義

単位数 2

備考

キーワード 教育協力現場 現地情報 パッケージ協力 教育協力事業評価 国際教育協力展望

連絡先・オフィスアワー

適宜提示する。

【授業の目的及び主旨・到達目標】

我が国国際教育協力の展開について理解を深めるとともに、多様な現地の教育協力現場の実際について視野を広げる。そのために、世界での典型的な教育協力の現地情報をもとに検討を加え、今後の国際教育協力の展望が持てるようにする。

【授業計画】

<第1日>

- 1～2週 我が国国際教育協力の展開についての理解
- 3～4週 典型的な教育協力の現地情報に基づく検討Ⅰ
 - 1. ケニア国の事例
 - 2. ベトナム国の事例

<第2日>

- 5～8週 典型的な教育協力の現地情報に基づく検討Ⅱ
 - 3. フィリピン国の事例（パッケージ協力）
 - 4. 大洋州の事例
- その他の事例報告

<第3日>

- 9週 典型的な教育協力の現地情報に基づく検討Ⅲ
 - 5. フィリピン国の事例（SBTP）
- 10～11週 上記事例研究に基づく成果と課題の明確化
 - 1. JICA事業評価ガイドラインとその実際
 - 2. JICA理数科教育協力の横断的評価からの報告
- 12週 学習・研究成果のまとめと評価Ⅰ

<第4日>

- 13～15週 学習・研究成果のまとめと評価Ⅱ
- (16週 定着度試験)

【履修上の注意事項】

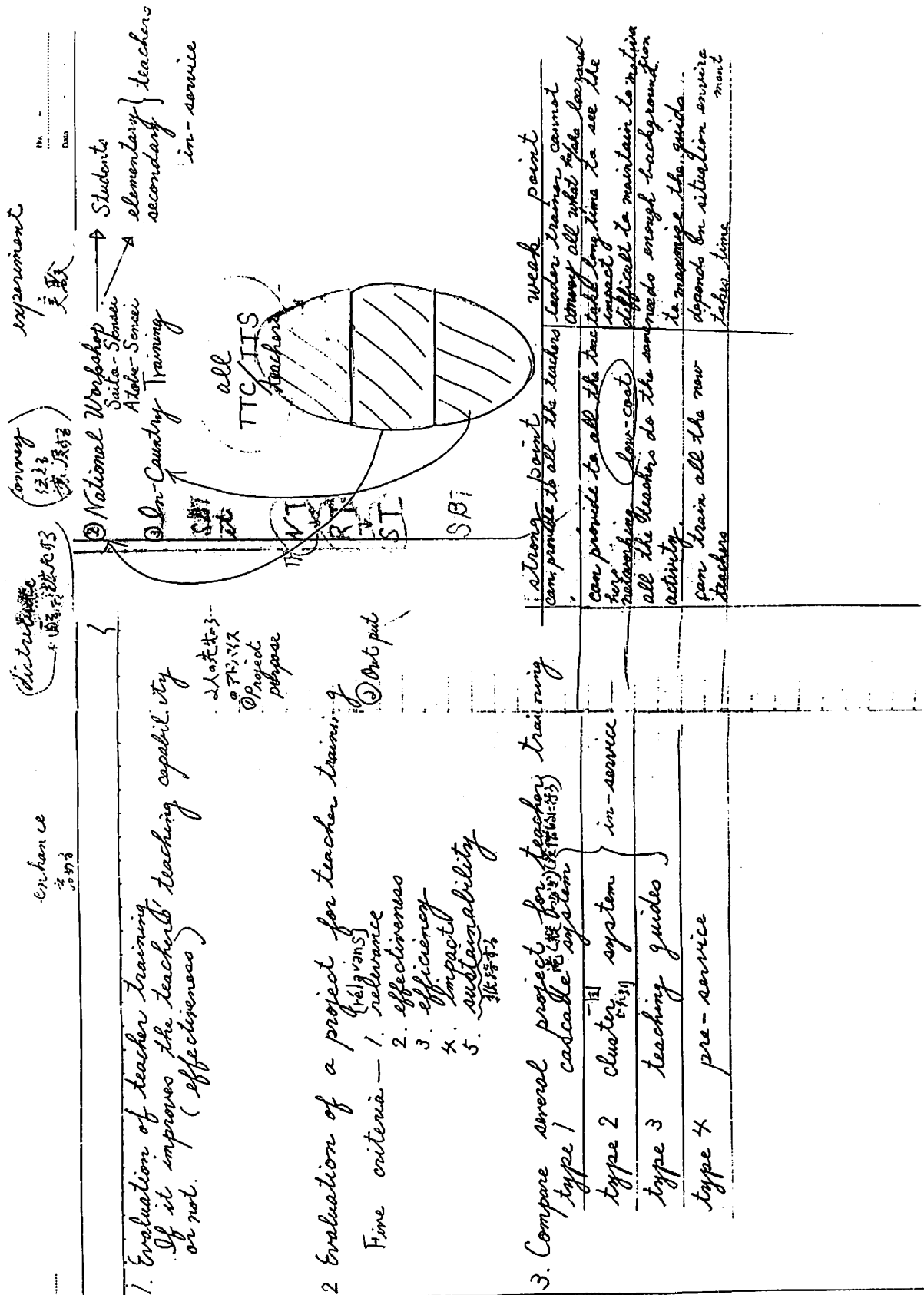
少人数のグループワークであるので、それぞれが自身の知識と経験とをもとに、積極的に意見を出し合い、学びあうこと。日本の新しい教育協力のアイデアを生み出すという高い意識で取り組むこと。

【成績評価方法】

随時、口頭発表を課す。出席状況、課題への対応状況、特にディスカッションへの参加などを考慮して総合的に評価する。

【テキスト・参考文献】

必要に応じて授業中に指示する。基本的には講師が用意する。



3 学校・家庭・地域への発信と普及

Announcement & Diffusion to the School, Homes, and Communities

(1) 全校展覧会の開催を通じて Through the School Exhibition

作品の鑑賞 Appreciate of Student's Works

展覧会の開催と展覧会への来場者 Many People Come to School Exhibition.



(2) 現地教員に対する図画工作・美術の指導法の普及

Diffusion of Teaching Method for Local Teachers

図画工作・美術の指導法についての教員研修の実施
Implementation of the Teacher Training about
Teaching Methods of Drawing and Handicraft &
Fine Arts.



途上国における図画工作・美術教育普及に向けて

A Proposal for Diffusion of Drawing and Handicraft & Fine Arts Education
in Developing Countries

ーパラオ共和国アライ小学校での授業実践を通してー

Through the Lessons Practices at Ailai Elementary School in Republic of Palau



鳴門教育大学大学院学校教育研究科
Graduate School of Education, Naruto University of Education
国際教育協力コース 大学院生 2 年
International Educational Cooperation Course

1 事前調査に基づく目標設定及び具体的実践計画
Goal Setting based on a Preliminary Survey and a Teaching Plan

(1) アンケートによる図画工作・美術教育の実態把握
Research the Current Conditions of the Drawing and Handicraft & Fine Arts Education by Questionnaire

(2) ねらい Aims

- ① 子どもたちが造形活動の楽しさと完成の喜びを味わえる授業を実践する。
Children can Experience Pleasure of Art Activities and Joy of Completion.
- ② 図画工作・美術教育の必要性や重要性を学校・家庭・地域に伝える。
For the School, Parents, and Communities are able to Perceive Necessity and Importance of Drawing and Handicraft & Fine Arts Education.

(3) 授業計画 Teaching Plans

学年 Grade	教材名 Title	折り紙 Origami Activities
1 年 1 st	大好きブーメラン：厚紙を使って Favorite Boomerang: Paper Work	チューリップ Tulip
2 年 2 nd	大好きブーメラン：スチロールを使って Favorite Boomerang: Styrene Board Work	ちょうちよ Butterfly
3 年 3 rd	スクラッチの不思議：絵に表す Wonder of scratch: Expressed to Picture-	ハート Heart
4 年 4 th	破れた穴からハロー：絵に表す Hello from the Torn Hole: Expressed to Picture	魚 Fish
5 年 5 th	わたしのパレット：混色と着色－ My Palette: Making Colors and Painting	かぶと Kabuto (Samurai helmet)
6 年 6 th	形を見つめて Examine the shape	やっこ Yakko
7 年 7 th	わたしのパライオ：スクラッチと工作 My Palau: Scratching and Designing	
8 年 8 th	わたしのマスク：工作とデザイン My Mask: crafting and designing	

(4) 学校長との事前打ち合わせ

The Prior Arrangement with a Principal

2 各学年における授業実践
Lesson Practices in Each Grade

